

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

## ②施設・事業所情報

名称：銀杏保育園・銀杏保育園胡桃館	種別：認可保育所	
代表者氏名：園長 辻 いづみ	定員（利用人数）：（銀杏保育園）60名 （銀杏保育園胡桃館）44名	
所在地：（銀杏保育園）横浜市戸塚区秋葉町147-1 （銀杏保育園胡桃館）横浜市戸塚区吉田町3001-1		
TEL：（銀杏保育園）045-443-6677 （銀杏保育園胡桃館）045-392-8364		
ホームページ：http://www.kusunokikai.ed.jp/		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：（銀杏）平成24年4月1日 （胡桃館）平成29年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 くすの樹会		
職員数	常勤職員：（銀杏）11名 （胡桃館）5名	非常勤職員：（銀杏）19名 （胡桃館）12名
専門職員	（専門職の名称） 名	
	保育士：（銀杏）23名 （胡桃館）13名	保育補助：（胡桃館）1名
	栄養士：（銀杏）3名 （胡桃館）2名	調理員：（銀杏）2名 （胡桃館）1名
	事務員：（銀杏）1名	用務員：（銀杏）1名
施設・設備の概要	（居室数）：（銀杏）乳児室1 保育室2 一時保育室1 （胡桃館）乳児室1 幼児室1	
	（設備等）：（銀杏）ソーラーパネルによる発電、地熱を利用した空調	

## ③理念・基本方針

## （法人理念）

私たちは、社会の福祉に資する者として、常に考え続け、行動し続ける努力をします。  
私たちは、私たちがかわる子どもたちが成長し、社会の役に立つ人になることを願って、日々の保育に専念します。

## （保育目標）

1. しなやかでのびのびとした心と体を持ち、人として心の豊かな子に育てます。
2. 自ら考え、選びとる目をもち工夫することができ、多くの困難に出会っても乗り越えられる子に育てます。
3. 優しさや思いやりの心を素直に表現することができる強い心を持った子に育てます。
4. 自分を大切にし、他の人も大切にする子に育てます。やがて、素敵な大人になるであろう子どもたちの育ちに想いを込めながら、子どもたちに関わる総ての人たちと共に育て、また私たちが育てられたいと願っています。

④施設・事業所の特徴的な取組

<p>(乳児)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・育児担当制を採り入れた保育</li><li>・ことばを手渡す保育</li><li>・草履保育（2歳児から）</li><li>・主体性を育む保育</li><li>・布オムツを使用した保育</li></ul> <p>(幼児)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・異年齢児保育</li><li>・草履保育</li><li>・主体性を育む保育</li><li>・季節を五感で思い切り感じ取ることができる活動</li></ul>
---

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和元年9月1日（契約日） ～ 令和2年4月17日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（平成26年度）

## ⑥総評

### ◇特に評価の高い点

#### 1) 幼児期までに欠かせない経験を大切にしています

幼児期までに身体が本来持つバランスや調整能力を育てることを趣旨にしています。健康に配慮しながらも、安易に空調に依存せず外気に順応させることや、素足で過ごし、2歳児から草履を履いて散歩をするなどの保育をしています。

食事は無農薬の食材、添加物のない自然素材の味付けを大切にしています。1200冊もの絵本を取り揃え、絵本を読み聞かせ想像力を育てることを重視しています。機能性、便利性が高度化した現代社会のなかで、幼児期にこそ経験させたいことを大切に保育を行っています。

#### 2) 子どもの主体的な育ちを大切にしています

異年齢保育によって年上の子ども・年下の子どもそれぞれが刺激を受け、自主的に成長していける取り組みをしています。異年齢の年齢別年間保育計画を作成し、音楽・体育・アート・文学の4項目に分け、段階的に目標に向けた取り組みにしています。

保育士は、発達過程と安全性を考慮した上で必要な時以外は、子ども同士の関わりや実体験を大切に保育を行っています。「5歳児会議」は、子どもたち全員が話し合い、一つのテーマを考え、作り上げていく取り組みで、生活発表会での披露につながっています。

#### 3) 苦情を積極的に公開して、保育に生かしています

寄せられた苦情内容を積極的に公開し、ホームページで閲覧できるようにしています。苦情に対して真摯に向き合い、改善すべきことはどのように取り組んだか、逆に園として理解してもらいたい点はどこなのかを内外に明らかにしていきたいと考えています。

「苦情は自らを高めるための大切な宝物」として、積極的にこれを公開する姿勢により保育の質向上に努めています。

### ◇改善を求められる点

#### 1) 人材育成の促進

園の理念・方針を十分理解して主体的に判断し、率先して実践できる人材を育てています。職員参加型の部会活動（環境リスク、絵本、玩具、食育）に取り組んでいます。

本園分園の協力関係、意思統一を図るために、合同の職員会議を定期的で開催しています。これらの取り組みが、人材の定着、育成に一層効果が発揮されることが期待されます。

#### 2) 実習生・ボランティア受け入れのマニュアル化

ボランティアの受け入れは行っていますが、今後は、受け入れの基本姿勢、手順や注意事項などを明文化し、十分な体制が期待されます。

実習生の受け入れは積極的に行っています。実習生受け入れは、職員の振り返りの機会でもあり、基本姿勢を明文化し、手順を決めたマニュアルの整備が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、2回目の第三者評価の受審でした。

分園の開園3年目、一昨年度末本園職員が多数流出という中で、再出発して間もない時期であり、ほとんどが1～2年目の職員であったため、全員が不安な中での今回の受審でしたが、目標としている保育の方向性や質はむしろ高まり、自分たちの自己評価より良い評価をいただいた部分に安堵し、自信を持つことができた反面、気付いていなかった課題を洗い出すことができたことは、大変有意義でした。

今回の受審を通して主任保育士を中心に、中堅職員の成長と、短時間職員の意識の変化とともに、分園との協力関係を構築した職員全員のチームワークと努力のあとを感じることができました。

評価結果を受けて、全員で共有し、私たちの園の強みを生かし、課題に取り組むための道標を得ることができたことに一同感謝しております。

ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり